様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １３ 日現在

機関番号：２３９０３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ１１０２７

研究課題名（和文）性的少数者の性感染症予防・医療サービス利用の阻害要因の明確化と改善策の提言

研究課題名（英文）Clarifying barriers of access to sexually transmitted disease prevention services and medical services among sexual minorities

研究代表者
金子　典代（Kaneko, Noriyo）

名古屋市立大学・大学院看護学研究科・教授

研究者番号：５０３３５５８５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：トランスジェンダー当事者の医療アクセスに関する調査では484件の回答を得た。48%の対象者が体調不良時に医療の利用をためらった経験を有していた。また医療現場でトランスジェンダーであることゆえに様々な被差別体験を受けており、その後の医療アクセスを阻害していることが示された。
ゲイバイセクシュアル男性を対象とした調査では、22.8%が精神的な支えのために助けを求めた経験があり、その経験は、自分の性的指向を自覚した時点でゲイバイセクシュアルの友人がいたこと、自分の性的指向をはっきりと自覚するまで1年未満であったこと、家族に自分の性的指向をカミングアウトした経験が関連していた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
トランスジェンダー/性別違和当事者における医療アクセスに焦点を当てた国内の実態調査は非常に限られている。400件を超す当事者からの回答を得て、体調不良時に医療サービスの利用を諦めた経験が48%に上ることを示した。また当事者がより医療を使いやすくなるよう、医療従事者、医療現場に望むことも示すことが可能となった。結果は冊子にもまとめ、様々な医療保健従事者対象の研修会で活用している。
また、ゲイバイセクシュアル男性が、自身の性的指向を自認した時期に、セクシャリティに関する心配事についての援助希求行動の実態も示し、必要な対策についての提言につなげることが可能となった。

研究成果の概要（英文）：The survey targeting transgender received 484 responses; 48% of the participants had experienced hesitation in accessing health care when they were sick. The study also showed that transgender people experienced various experiences of discrimination in the medical field due to their sexuality, which subsequently hindered their access to medical care.
In a survey of gay bisexual men, 22.8% had sought help for emotional support, and their experiences were associated with having a gay/bisexual friend at the time they became aware of their sexual orientation, taking less than one year from questioning to becoming aware of their sexual orientation, and coming out to family members.

研究分野：健康行動学

キーワード：トランスジェンダー　LGBTQ　性別違和　医療アクセス　援助希求行動　ゲイバイセクシュアル男性　メンタルヘルス

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

日本でも性的少数者の可視化が進み、雇用や教育の場で彼らが生きやすい環境づくりに向けた取り組みが行われている。しかし、日本では、海外と比べても医療現場での性的少数者に配慮した対応の整備は格段に遅れている。性的少数者が抱える健康課題は数多くあるが、中でも、HIV 感染症、A 型肝炎、HPV 感染症等の性感染症、メンタルヘルスが悪い状態は異性愛者と比べて彼らに著しく高率に発生している。このような状況にもかかわらず、性的少数者は早期発見のための検査、ワクチン接種の利用が低く、医療へのアクセスが遅れがちであること、また性的少数者のグループ間にも予防サービスや医療へのアクセスに格差があることが明らかになりつつある。また、メンタルヘルスに関しては、メンタルヘルスクリニック受診や心理的サポートを希求する行動も起こしづらいことが示されている。

また、出生時の性別と性自認に不一致があり、男性と性交渉をするトランスジェンダーの HIV 感染の感染リスクはゲイ男性より高いことは明白なエビデンスとなっているが、彼らのニーズに即した性感染症の予防サービスは日本では全く整備されていない。トランスジェンダーは差別偏見への恐れから医療サービス全般へのアクセスが悪いことが知られており、海外では、対応が急速に進んでいるが、日本ではトランスジェンダーの医療へのアクセスの実態は明らかになっていない。トランスジェンダーを含めた性的少数者の医療アクセス改善に向けた対策が我が国では非常に遅れており、早急に整備を進める必要がある。

２．研究の目的

日本全国のトランスジェンダー当事者を含む性的少数者の医療へのアクセスの実態、利用における困難を明らかにすること。日本のゲイ・バイセクシュアル男性の性指向を辞任した時期における援助希求行動と関連要因を明らかにすること。

３．研究の方法

以下の 2 つの調査を実施した。

1）TG　GD 性別違和　性別不合当事者の調査

自記式質問紙・オンライン調査により実施した。質問紙は、当事者、セクシャルマイノリティの HIV 感染予防に関する質問紙調査の経験が豊富な 5 名の研究者と協議を複数回行い策定した。調査プロジェクトの関わるメンバーにより、主に SNS を通じて呼びかける形で回答を募った。

2）ゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした調査

A 県において、LGBT が集まるイベントにおいて、横断調査を実施した。参加者は紙と鉛筆による無記名の自己申告式アンケートに回答した。参加資格は、男性であること、20 歳以上であること、日本語の読み書きができることであった。研修を受けたスタッフが参加資格を説明し、参加を呼びかけた。

４．研究成果

1）の調査について

日本でもトランスジェンダー当事者を対象とした調査を実施し、484 件の有効回答を得た。これまでに受けたことのある治療は、精神療法が、ホルモン療法が、手術療法が続いて多かった。治療をやめた経験がある人は 20%近くであり、その理由は、金銭的な問題、精神的な問題、医療者の対応も含まれた。 風邪、けが、体調不良時でも約半数が受診をためらった経験を有していることが示され、医療機関受診への心理的障壁は高いことが示された。ホルモン剤の処方 やカウンセリングのみならず、様々な診療科での受診、医療機関の入院時、職場での健康診断などの場においても様々なストレスフルな体験を有していることが 示された。

対象者を MtF(N=153)、FtM(N=229)に限定し、これまでに体調不良時に受診をためらった経験、医療機関受診時に嫌な体験をした経験の２つのアウトカムと、年代、セクシュアリティ、戸籍性や戸籍名の変更経験、居住地、収入、ホルモン療法の経 験、手術療法の経験、ホルモン療法やカウンセリング等の治療中断経験との関連を分析した。受診をためらった経験があることと手術療法を経験していること、 治療中断経験があることに有意な関連があり、受診時に嫌な体験をしたことと、戸籍性を変更していないこと、職業が非正規であること、治療中断経験があることに有意な関連が見られた。

より詳細に記述すると、診察をためらったことがある経験は、治療を中断した経験があることと正の関連がみられ、調整済みオッズ比（95%CI）は 1.934(1.141～3.278)であった。ま た、受診時の嫌な経験があることは、戸籍上の性別の変更の有無、手術治療の経験の有無、治療を中断した経験の有無と関連が見られた。戸籍上の性別に関して は、戸籍の変更をしていないものの方が、変更をしているものより嫌な経験をしており、調整済みオッズ比（95%CI）は 1.477(0.937～2.327) であった。また、手術経験がないことは受診時の嫌な経験との正の関連がみられ、調

整済みオッズ比（95%CI）は 1.525(1.011～2.299)であった。トランスジェンダーに必要なホ ルモン治療等の必要な治療を中断した経験があることも、受診時に嫌な経験をしたことと関連がみられ、調整済みオッズ比（95%CI）は 2.083(1.223～3.546)で あった。

性的少数者が医療機関受診時に配慮してほしいこととして「問診票に男女のみならずその他も入れてほしい」「性別を何度も確認しないでほしい」「フルネームで呼ばないでほしい」「じろじろ見ないでほしい」「呼ばれたい名前に配慮してほしい」といったニーズが挙げられているが、これらは医療機関でも対応可能であること が示された。このようなニーズへ対応するためには、医療職者は、必要となる配慮を知識として講義形式で知るのみならず、ロールプレイ等の演習を行い、対応 スキルやコミュニケーションスキルを向上させる必要性も示された。

2）の調査について

合計 515 通の調査票を配布し、505 通を回収した（回収率 98.1%）。男性」かつ「ゲイ」または「バイセクシュアル」であると回答し、20 歳以上で、性的指向に関する悩みについて助けを求めた経験について回答した 360 人（71.2%）を本研究の対象とした。

平均年齢は 31.2 歳（SD =7.8）であった。質問から自分の性的指向に気づくまでの平均期間は 4.2 年（SD=4.2）であった。性的指向に関する悩みについて助けを求めた経験と関連する要因については、360 人の回答者のうち、22.8%（N=82）が性的指向に関する懸念について精神的なサポートを求めるために助けを求めた経験があった。参加者は、助けを求めた経験の有無によって 2 つのグループに分けられた。参加者の人口統計学的属性、予測因子、および精神的支えのために助けを求めた経験を表 1 に示す。年齢（p=0.024）、職業（p=0.009）、性的指向を自覚していた頃のゲイ／バイセクシュアルの友人の有無（p<0.001）、家族に性的指向をカミングアウトした経験（p=0.018）は、性的健康に関する悩みについて誰かに相談した経験と関連していた。

性的指向に関する悩みについて助けを求めた相手 については、ゲイ・バイセクシュアル男性が最も助けを求めたのは同性の友人（70.0%）、次いで異性の友人（25.0%）、母親（17.5%）、インターネット（16.3%）。その他の相談者の利用率は 10%未満であった。性的指向に関する悩みについて助けを求めた経験の関連因子については、多変量モデルを用いて検討した。その結果、自分の性的指向を自覚したときにゲイ・バイセクシュアルの友人がいた人は、そうでない人に比べて、性的指向に関する悩みについて精神的なサポートを求めた経験が高く（AOR，12.13）、自分の性的指向を自覚するまでに 1 年未満かかった人は、5 年以上かかった人に比べて高く（1 年以内：AOR，2.48）、自分の性的指向について家族にカミングアウトしたことがある人は、そうでない人に比べて高かった（AOR，1.77）。

本研究の 1）－2）の成果については、愛知県内の K 市における中学校に勤務する教員、養護教諭への講習会、T 市の保健師、養護教諭、保健医療従事者を対象とする講習会、 HIV 予防に従事するコミュニティヘルスワーカーが集まる全国会議において公表を行った。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 Kaneko Noriyo、Hill Adam Orlando、Shiono Satoshi	４．巻 17
２．論文標題 Factors associated with help-seeking regarding sexual orientation concerns among Japanese gay and bisexual men: results from a cross-sectional survey	５．発行年 2024年
３．雑誌名 BMC Research Notes	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s13104-024-06776-x	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 金子典代	４．巻 2月号
２．論文標題 セクシュアルマイノリティーの当事者が医療へ感じる「壁」	５．発行年 2022年
３．雑誌名 メヂカルフレンド社　看護技術	６．最初と最後の頁 85-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 金子典代，健山正男，和田秀穂，高久陽介，宮城京子	４．巻 34(1)
２．論文標題 HIV治療通院中のMSMにおける急性感染期の医療機関の受診、受診先でのHIV検査の受検、性感染症の既往	５．発行年 2024年
３．雑誌名 日本性感染症学会誌	６．最初と最後の頁 99-101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 金子典代，塩野徳史	４．巻 23(2)
２．論文標題 コミュニティセンターに来場するゲイ・バイセクシュアル男性のHIV・エイズの最新情報の認知度とHIV検査経験，コンドーム使用との関連	５．発行年 2021年
３．雑誌名 日本エイズ学会誌	６．最初と最後の頁 78-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計11件（うち招待講演　0件／うち国際学会　2件）

１．発表者名 金子典代
２．発表標題 日本のMSMにおけるHIV検査の促進、阻害要因に基づく検査拡大ストラテジー
３．学会等名 第1回Fast-Track Cities Workshop Japan
４．発表年 2021年

１．発表者名 金子典代
２．発表標題 MSMを対象としたHIV検査促進プログラムの変遷とHIV検査機会拡大にむけた新たな試み
３．学会等名 日本エイズ学会シンポジウム，第35回日本エイズ学会学術集会・総会
４．発表年 2021年

１．発表者名 金子典代
２．発表標題 LGBTとセクシュアルヘルスニーズの多様性、HIV感染症を中心に
３．学会等名 令和3年度愛知県感染症予防指導者セミナー
４．発表年 2021年

１．発表者名 金子典代
２．発表標題 セクシュアルマイノリティの医療アクセス
３．学会等名 さいたま市「多様な性を知る講座」
４．発表年 2021年

１．発表者名 金子典代
２．発表標題 セクシャルマイノリティ特有の健康課題の理解と求められる対応
３．学会等名 第39回愛知県母性衛生学会総会・学術集会
４．発表年 2021年

１．発表者名 Benjamin R. Bavinton, Adam Hill, Natalie Amos, Sin How Lim, Thomas Guadamuz, Noriyo Kaneko, Martin Holt, Adam Bourne
２．発表標題 Low PrEP uptake among gay, bisexual, and other men who have sex with men in five Asian countries: Results of the Asia Pacific MSM Internet Survey
３．学会等名 The 11th IAS - the International AIDS Society - Conference on HIV Science（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Adam O Hill, Benjamin R Bavinton, Noriyo Kaneko, Lise Lafferty, Anthony Lyons, Stuart Gilmour, Jennifer Power, Gregory Armstrong
２．発表標題 Associations between social capital and HIV risk-taking behaviours among men who have sex with men in Japan
３．学会等名 2021 Joint Australasian Sexual Health and HIV&AIDS Conferences
４．発表年 2021年

１．発表者名 Anand Tarandeep, Nitpolprasert Chattiya, Shirasaka Takuma, Iwatani Yasumasa, Yokomaku Yoshiyuki, Imahashi Mayumi, Kaneko Noriyo, Iwahashi Kota, Ikushima Yuzuru, Aoki Rieko, Ishida Toshihiko, Shiono Satoshi, Yamaguchi Masazumi, Takemura Keizo, Iwamoto Aikichi
２．発表標題 HIV Prevention among MSM in JAPAN: Current Opinions on Achieving the First 90 among Japanese MSM
３．学会等名 The International Congress on Drug Therapy in HIV Infection(HIV Glasgow 2020)（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 荒木順、金子典代、木南拓也、岩橋恒太、藤原孝大
２．発表標題 コミュニティセンターにおける相談・支援の実際と課題、「場」の効果について
３．学会等名 第36回日本エイズ学会学術集会・総会
４．発表年 2022年

１．発表者名 金子典代、浅沼智也、荒木順、生島嗣、塩野徳史、砂川秀樹、宮田りりぃ、今村顕史
２．発表標題 性別違和・トランスジェンダー当事者における性産業従事経験、性行動、性感染症の罹患、検査の実態
３．学会等名 第36回日本エイズ学会学術集会・総会
４．発表年 2022年

１．発表者名 浅沼智也、金子典代、荒木順、生島嗣、塩野徳史、砂川秀樹、宮田りりぃ、今村顕史
２．発表標題 トランスジェンダーとセクシュアルヘルス
３．学会等名 GID学会第23回研究大会・総会
４．発表年 2022年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

名古屋市立大学看護学研究科国際保健看護学・健康行動学・ヘルスプロモーション研究室 https://ncuintl.jp/ トランスジェンダーとセクシュアルヘルス　プロジェクト https://trans-sh.jp/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
英国	Brighton University			
イタリア	University of Verona			
オーストラリア	La Trobe University			